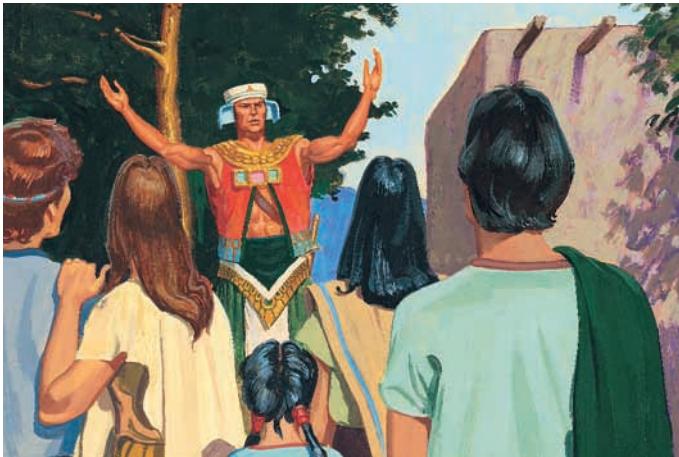


アルマとニーホル

だい20しょう



モーサヤ王がなくなる前、ニーファイ人は自分たちをおさめるさばきつかさをえらびました。むすこのアルマはさいしょの大さばきつかさにえらばれました。アルマは教会のしどうしゃでもありました。(モーサヤ29：41-42)



ニーホルという大きくて力の強い男が、うそを教えて回っていました。ぜんにんであろうがあくにんであろうが、みんなすぐわれるというのです。多くの人びとはニーホルをしんじました。(アルマ1：2-5)



ニーホルは神の教会にはんした教えをといていましたが、ギデオンという正しい人がそれをやめさせようしました。ニーホルはギデオンと言ひあらそいました。しかし、ギデオンは神のことで語りました。(アルマ1：7-8)



ニーホルはおこって、つるぎでギデオンを切りころしました。(アルマ1：9)



ニーホルは、さいばんをうけるためにアルマの前につれて来られました。ニーホルは、はずかしげもなくべんかいしました。(アルマ1：10-11)



しかしアルマは言いました。「あなたにはつみがある。たみにあくを広め、ギデオンをころした。」(アルマ1：12-13)



「ギデオンをころしたばつをうけなければならない。よってくほうにより、あなたをしけいにする。」(アルマ1：14)



ニーホルは近くのおかへつれて行かれて、しよけいされました。ニーホルはしめ前に自分が教えたことはすべてまちがっていると言いました。しかしそれでも、多くの人びとは、ニーホルが広めたその教えからはなれませんでした。(アルマ1：15-16)



かれらとはみをほしがって、神のいましめをまもろうとせず、教会いんをからかったり、教会いんと言ひあらそったりしました。(アルマ1：16, 19-20, 22)



それでも正しい人びとは、いましめをまもりつづけ、ニーホルをしんじる人たちにくるしめられても、ふへいを言いませんでした。(アルマ1：25)



教会いんはもっているものをまずしい人びとと分かち合い、びょうにんのめんどうを見ました。このようにして神のいましめをまもった人たちは、しゅくふくをうけました。(アルマ1：27, 31)